

## 基本理念・基本構想が完成して 学識委員からのコメント



竹田市総合文化ホール  
グランツたけた(大分県)  
チーフプロデューサー  
元 上田市交流文化芸術センター  
(サントミュージゼ)プロデューサー  
おざわ おうさく  
小澤 櫻作 学識委員



愛知県立芸術大学 特任職員  
元 名古屋フィルハーモニー交響楽団  
演奏事業部長  
やまもと ひろし  
山元 浩 学識委員



明治大学教授  
ささき ひろゆき  
佐々木 宏幸 学識委員

運営形態は気になるところで、利用者、スタッフ、関係者が向き合い、信頼し合える関係をキープできることが大事。そこに不安があると、公共ホールの運営は難しくなる。現実味のある温かい計画になることを期待している。

飯田文化会館は、これからも同じ体制でやっていくことが重要なので、続けてほしい。団員の頃、公演で飯田文化会館に行くと「おかえりなさい」という雰囲気であげてくれたことも印象的。その気持ちを大事にしてほしい。

文化会館で活動する一人ひとりによって、そこが人が自然と集まる「ひろば」化し、まち全体が「文化の広場」として創られていく。これが、まち・文化会館の将来像ではないか。これで終わりではなく、新たな出発として期待する。

# TOWARD THE NEXT STAGE

みんなでつくる「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

2024.5  
Vol. 10

## 飯田文化会館 ニュースレター

TAKE FREE

### 第11回 飯田市新文化会館整備検討委員会

基本構想(最終版)の報告・基本計画に期待するもの

### 整備検討委員長のコメント 「人が集い、文化が創られていく、ひろばへ」



塩澤哲夫 委員長

正解がない中、委員会開始当初は「最適な回答が見つければ良い」と、全体を見ながらさまざまな意見交換の調整をしていましたが、基本理念がまとまってきたあたりから、私自身も意見を示すようになりました。同じ土俵で「そういう考えもあるよね」と聞くことで考えも広がり、回を重ねるごとに意見が絞られ、共通の思いとして集約されていきました。「文化会館はただの建物ではなく、市民によって〈ひろば化〉されるもの。日常的に人が集まって、文化が創られていく、そういう環境や空気がある場所」という考えに、皆が納得できた委員会だったと感じます。

新しい文化会館がいつもオープンで日常的に足を運んでもらえるような空間にしていくため、発想を転換しながら柔軟な考えができるよう、今後も委員長として見守っていきたいと思います。

### 今後の流れ

#### 今まで

#### 基本理念・構想 (令和4~5年度)

#### 【骨格・・・考え方】

目標とすべき将来像や理念を描きその実現のための方針(方向性)を示す。

- 新しい施設の基本コンセプト
- 事業の考え方
- 施設整備の考え方 など



#### これから

#### 基本計画 (令和6年度～)

#### 【具体案・・・計画】

基本構想を実現するため、体系的・計画的に検討し、施設構成や設備を計画する。

- 〈例〉
- 具体的な条件整理
  - 必要な機能、施設規模
  - 概算事業費 など

1 専門家会議  
(基本計画素案の検討)

2 整備検討委員会  
(意見交換)

3 市民ワークショップ  
利用団体意見交換会



飯田市新文化会館整備検討委員会では、令和4年6月の発足からおよそ1年半の期間を経て、基本理念・基本構想(案)を検討してきました。今年2月、市民から意見を募集し、意見を反映した基本構想(最終版)が完成。今回の委員会では主に、基本構想(最終版)の報告と、学識委員と整備検討委員長によるパネルディスカッションが行われ、今年度から検討に取り組む「基本計画」への期待が寄せられました。

基本構想(最終版)の報告

第1部

第1部では、基本構想の概要版パンフレットを参照しながら、最終的に決定した内容について館長から説明がありました。その後、議論を重ねてきた検討委員全員から、一言ずつ感想が述べられました。検討委員として参加した賜さん(前飯田東中学校長)は、「これからの小中学生にとって、新文化会館が憧れを育む場、憧れとの出会いの場になっていくことを期待し、部活動の場にも、この考えを生かしていきたい。」と、思いを語りました。

検討委員のコメント

人形劇のまちとして、さまざまな種類の人形劇があるということを幅広く伝え、大きく脱皮していく必要がある

いろいろな人が集まり、触れることができる場所になってほしい

飯田で生まれ育った子どもたちが、どれだけ故郷を誇りに思い、語れるかが大事なこと

今後は、ライブで見ることの素晴らしさ、価値を訴えかけていく必要がある

園児や小中学生たちが、日常の中で文化に触れ、育つ環境を提供できることが大切

基本理念は、密度が高いコミュニケーションの中で生まれたものと実感。飯田はプレーヤーだけでなく、支える人もたくさんいるすごい場所

話し合いを通じて、ステージに立つ人に憧れを持てるような環境づくりも大切だと感じた

集い、鑑賞し合うことは、地域にとっても良いこと。文化会館が、そんな地域のシンボルになっていけば良い

参加の仕方が多様にある「みんなで作っていく」という形を残し、伝え、広げることが大事ではないか

子どもの頃、文化会館で舞台を見たりして「飯田でもこんなことができるんだ」という経験ができた。そんな経験や思いを若い人にも伝えていきたい

飯田には、演者でもあり裏方もやるなど、携わる人やその携わり方も多くある。大きな公民館を目指すことで、小さなコミュニティもだんだんと大きくなっていくと想像できる

自主事業の多くが、市民主体による実行委員会形式(市民と行政の協働)で行われている。この方式を維持していくことが、飯田の文化をつなげていく肝になるのでは。課題は飯田方式を次世代にどうつないでいくか

一人ひとりが主体的になる風土を、まちを作っていくべき

「飯田」「集う」に力点が置かれることが印象的であり、「集う」が前提にあることが重要だと感じる

イベントがある時だけ行く場所ではなく、自然と人が集う場所となるよう、文化会館に集う人がどんな思いで、何が語られてきたかも大事に引き継いでほしい

リニア駅で、飯田市が大きく変わることが予想される中、社会情勢も予想を遥かに超える勢いで変わってきている。「本当に新文化会館ができるのか？」という不安がある中でも、それに抗おうとする姿勢が必要



第2部

パネルディスカッション【特別対談】 テーマ | 基本計画に期待するもの

〈進行〉

明治大学教授  
ささきひろゆき  
佐々木 宏幸  
学識委員

進行を担う佐々木学識委員から、パネルディスカッションの目的として「基本構想の最終回(夢)/基本計画のキックオフ・どういふスタートを切るのか(現実)、という意味合いも持つ。夢が現実、どちらを取るのかという問題ではなく、今後の管理運営のよりどころになるものと考え」と共有されました。登壇された3者それぞれの視点から「今後を見据えて、これだけは伝えておきたい」といった意見が交わされました。

企画管理・プロデュースの視点

芸術活動と社会をつなぎ  
人材確保を視野にいたした計画を

竹田市総合文化ホール  
グランツたけた(大分県)  
チーフプロデューサー  
元 上田市交流文化芸術センター  
(サントミュージゼ)プロデューサー  
おざわ おうさく  
小澤 櫻作 学識委員

基本構想が新文化会館のよりどころになることは確実で、今後は、基本理念(魂)を実現し継承させていくために、広い視点で計画していくことが大切(魂を受け入れる器づくり)。「安全安心な管理」のため、地元や専門的な人を集める必要がある。人材確保、育成と定着と、いかに効率的に質を高く投資できるかが重要になってくるのでは。

舞台上立つ側の視点

舞台芸術以外にも  
幅広い人たちが集える場所へ

愛知県立芸術大学 特任職員  
元 名古屋フィルハーモニー交響楽団  
演奏事業部長  
やまもと ひろし  
山元 浩 学識委員

実際に使う人の幅がより広がる施設となることが重要。今の文化会館に足りない部分は変えていき、ジャンルごとに合わせられる音響の設計にも取り組んでいきたい。飯田はいろいろな立場で関わる人が多いので、それぞれの立場で意見を出し、完成した際には大いに使われて、劇場が賑わっていくことが大事。ぜひ、それを目指してほしい。

地域で活動する視点

「集まれ」と言わなくても  
自然と帰ってこられる場所へ

新文化会館整備検討委員会  
しおざわ てつお  
塩澤 哲夫 委員長

議論を重ねる中で「人が集まると、ひろばになる」という意見が印象的だった。基本構想の実現のために、期待するよりも自分がどう動くか、実現するために私たちは何をするかを考え、実行したい。「文化会館に行くと、なんか楽しいことがある」「集まれと言わなくても、自然と帰ってこられる」そんな場所をみんなで作ってほしい。

